



精一杯書き、精一杯彫る。

## 彫

刻刀やノミで、板に貼った文字を立体的に彫り、金箔などで彩色を施す「刻字」。今回は市内で刻字家として活動し、先日、フランスのサロン・ド・アール・ジャポネ2022で最優秀賞を受賞した秋山浩志さんにお話を伺いました。

### ✂ 刻字を始めたきっかけは？

学生時代は登山などに夢中になっていた。刻字や書道とは無縁でしたが、そこで本堂の入り口に掲げられた日本一大きな刻字といわれる「金堂」の扁額に出会い、初めて刻字を知り、興味を持つようになりました。

その後、NHKの文化教室で偶然「刻字」を目にし、講師の高際翠邦先生(後に毎日書道会顧問などを歴任)が「金堂」の刻字を制作した大久保翠洞先生の一弟子だと知り、縁を感じ29歳で刻字を習い始めました。

### ✂ それからの活動は？

輪王寺での仕事のかたわら、高際翠邦先生に師事し、月2回ほど藤岡町(現在の栃木市)の先生宅に通い指導を受けながら、展覧会などへの出品を行っていました。

平成27年には「刻字

## 刻字家

秋山 浩志 さん (山内)

を多くの人に広めたい」と思い、今市公民館で市民講座を開講しました。

その後、市内では日光公民館、藤原公民館と講座を続けています。

そして平成30年、46歳のときに「さらに刻字の魅力を広め、「刻字」という言葉を誰もが知っている環境を作りたい」と決心し、輪王寺を退職して独立しました。

### ✂ 現在の活動は？

刻字講座は、藤原公民館のほか県内外で行っています。いずれ刻字で活躍する生徒を育てることができればと思っています。また、7月1日には、講座の受講生をはじめとした刻字愛好家の皆さんと栃木県刻字連盟ならびに日光市刻字連盟を設立しました。今後、市内外で展覧会を予定しています。

自身の活動は、展覧会への出品が主です。個展のための大作を作る準備も進めています。

### ✂ 作品制作の流れは？

基本は1つの作品に集中して制作します。まずは文字を決めますが、刻字にふさわしい力強い書体の古代文字を選びます。その後、書く↓彫ると進みますが、大きい作品では納得できる文字を書くために1カ月くらいかけ、それをカツラの木の板に貼り付け、彫るのにまた1カ月くらいかけます。最後に金箔や墨などで彩色を施し完成です。



サロン・ド・アール・ジャポネ2022で最優秀賞を受賞した作品「吉問」

### ✂ アール・ジャポネ最優秀賞受賞の反応は？

やはり、心を込め、時間をかけて手彫りで彫った先にこそ、感動できる作品が完成すると思っています。

東洋的な書に躍動感や荒々しさを加えた刻字の精神性とともに、気持ちを込めて作ったことが伝わったのだと思います。結果的に海外の方に刻字を知ってもらおう良いきっかけになりました。海外への出品は今後も続けていきたいと思っています。

### ♥ インタビューを終えて

職場や刻字、恩師との出会いを始めたとした「縁」を大切に、これから「恩返し」をしていきたいと語る秋山さん。最終的には「恩師を超えること」が一番の恩返しになると考えているそうです。そして、働き盛りでの独立に理解し、受け入れてくれた家族には本当に感謝しているとのことでした。

私も今回の取材を「縁」に、一度刻字を体験してみたいと思いました。

